

団塊の世代のパワーを地域貢献活動に

町社会教育委員会議答申



戦後生まれの「ベビーブーマー」と呼ばれた人たちが還暦を迎え、第二の人生を始めようとしています。そうした、いわゆる「団塊の世代」の人たちは、これまでの社会生活で多くの経験を積み、さまざまな力を蓄えています。そのような力を地域の社会教育のために生かさないかという考えから、町教育委員会は、平成17年6月に社会教育委員会に対して、「団塊の世代の地域貢献について」の研究を行い、地域の教育力を高めるための方策を諮問しました。社会教育委員会議は、諮問に応じて調査・研究を進め、平成19年3月に答申書を提出しました。ここでは、その概要をお知らせします。

生涯学習課 ☎ 82-52221

アンケートの結果と分析

現状を把握するため、町在住の団塊の世代180人を対象にアンケートを行いました。団塊の世代の人は、今後生きがいのある生活を送るために、自分の趣味を充実させることや家族への協力・支援を考えており、生涯学習に取り組もうと考えている人が6割以上でした。

文化、芸術の指導者をめざしたいという人も見られました。地域貢献活動をしたいと思っている人は6割以上で、そのうちの半数以上の人はどちらかと言えば有償での活動を望んでいます。青少年育成活動にかかわりたいと考えている人は約4割で、地域教育力の向上にかかわることを検討したいと考えている人は3割以上でした。

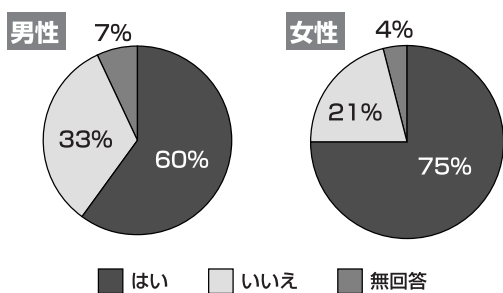
また、住民参加によるまちづくりを支援するためのNPO法人などの組織の発足は、3割以上の人が賛成でした。また、学校と地域との連携も図られてはいますが、今一つ物足りません。学校教育への活動をさらに推進する。自治会の青少年健全育成活動を推進し、青少年のリーダーを育成する。世代間交流のための子どもの遊び場を作る。青少年健全育成関係団体の連絡調整機関を設置する。地域教育力向上のための推進機関を設置する。



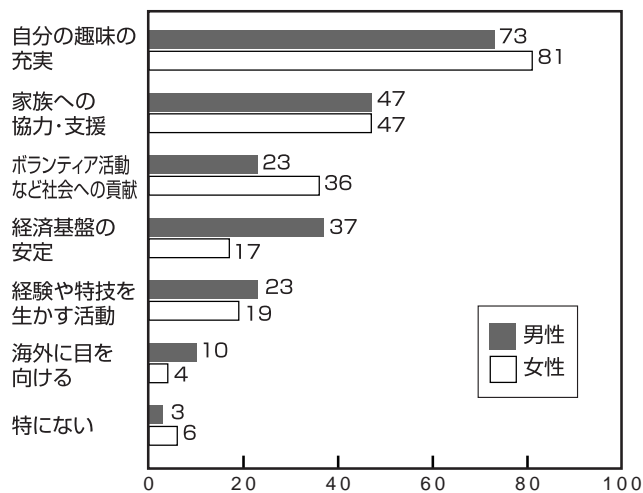
瀬戸屋敷で行われたジュニアリーダー研修(バレーボールを月に見立てた天体学習の様子)

団塊の世代へのアンケート

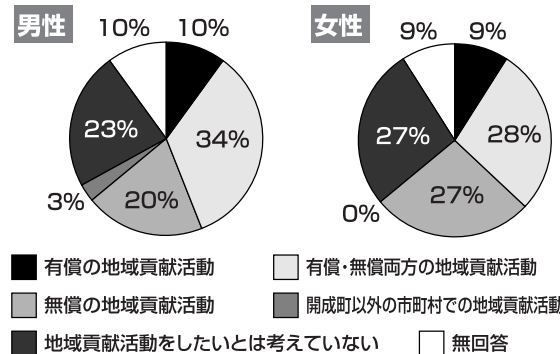
問1 今後、生涯学習活動に取り組む考えはありますか。



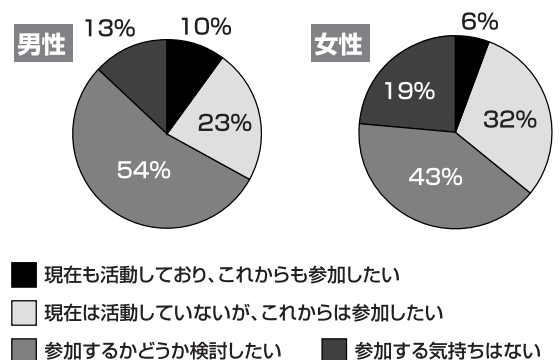
問2 今後、生きがいのある生活を送るために、どういうことに関心がありますか。(三つ以内でお答えください)



問3 今後の生活の中で、地域貢献にかかわる活動をしたと考えていますか。



問4 地域の教育力を高めるためには、教育活動や自然保護活動、文化活動、スポーツ活動などについて地域住民が自発的に行うまちづくりが大事だと思いますが、これらの活動に参加したいと思いますか。



地域の教育力を高めるためには、団塊の世代の人々の協力や地域教育力の充実には、団塊の世代の人たちの社会経験が有効です。趣味やスポーツを展開する文化団体連絡協議会や体育協会の活動や住民参加のまちづくりに、団塊の世代の人たちの活動の余地が大いにあり、思われます。

地域教育力を高めるために

こうした分析を踏まえて、社会教育委員会では、次のような方策を答申しました。

- ① 団塊の世代に生涯学習、各種住民活動の情報を提供する。
- ② 団塊の世代に対して社会教育活動の啓発をする。
- ③ 自治会、サークル、ボランティアなどの生涯学習活動の場を整備し提供する。
- ④ 教育ボランティアへの参加を呼びかける。
- ⑤ あいさつ、防犯、交通安全

開成町社会教育委員会議 (敬称略)

- 平成18年度の委員 議長 北村幸次
- 副議長 吉田敏郎、下山千津子
- 委員 渡部勇介、前田忠明
- 平成17年度の委員 副議長 鳥海均
- 委員 鈴木猛史、杉山文江、小野則子
- 委員 武藤知子、府川温子、白石久司